

海進で絶滅した生物はいるの？



写真の中の生物が生活する場所を調べて、なぜそこで生活するようになったのか考えてみよう。

海進と絶滅

現在日本にも、絶滅しそうな生物が数多くいます。それらの多くは人が乱獲したり、生物の生活環境を壊したり、他の地域から持ってきた動物が原因で起こっていることです。たとえば、トキは人による乱獲とトキの生活環境を壊した結果、絶滅してしまいました。また各地の沼や湖の生物を絶滅の危機に追いやっているオオクチバスやコクチバスは、人が北アメリカから持ってきた魚で、釣りを楽しむためだけに各地に放されました。このように現在起こっている絶滅の原因の多くは、人の生活にあります。では人の活動ではなく、過去何回も起こった海

進で絶滅した生物はいたのでしょうか？

現在までのところ、海進が直接の原因で絶滅したと考えられている生物は見当たらないようです。しかし海進という現象は、地形の変動などの特別な場合を除き、温暖化の結果おこる1つの現象であり、海進だけが単独で起こることはありません。温暖化では海進がおこるだけでなく、様々な環境が変化します。環境の変化によって、そこにいる生物が生活しにくくなることもあり、その結果、生物の絶滅につながることもあるでしょう。

すなわち、海進を起こした温暖化によって環境変化が起こり、日本で絶滅した生物もたくさんいたと考えられます。

表の写真

アサヒナキマダラ
セセリ、ベニボシ
カミキリ、クビボ
ソハナカミキリ、
チョウノスケソ
ウ、ホソバヒョウ
モン、ウルツソ
ウ、ライチョウ、
ミヤマシオガマ、
クモマベニヒカゲ

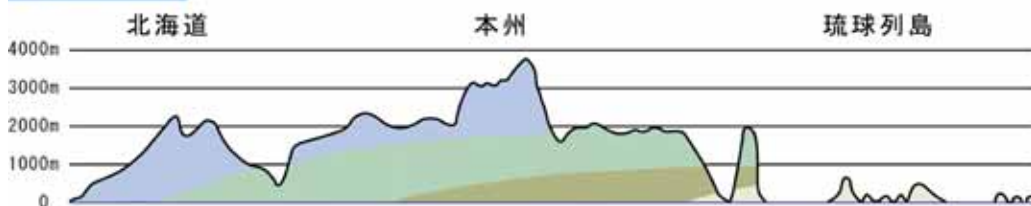
人の活動が原因
ではなく絶滅した
動物を調べてみよ
う。

博物館の展示室
で、ヒグマとツキ
ノワグマの分布を
調べてみよう。

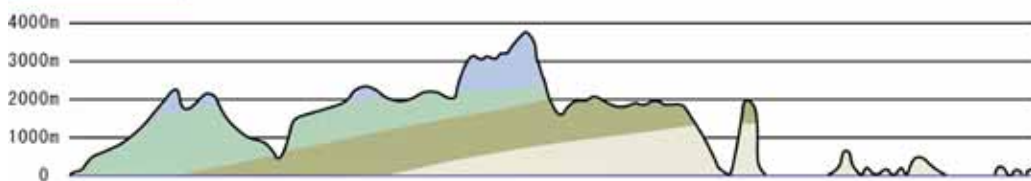
日本の高山に生活
する生物の、ユー
ラシア大陸での
分布を調べてみよ
う。

参考
池谷仙之・北里洋, 2004. 地
球生物学. 東京大学出版
会.
宮脇昭編 1977. 日本の植生.
凸版印刷株式会社.

最終氷期



現在



高山帯 針葉樹林帯 ブナ帯 シイ・カシ帯

寒冷 ← → 温暖

地球の長い期間での気候の変化は人が生活している年数の間ではなかなかわかりませんが、地球の歴史を調べてみると、現在と過去の気候とには大きな違いがあることが調べられています。そして気候の変化に伴い、そこで暮らす生物も移り変わってきました。

生物には、生活に適した環境とそうではない環境があります。たとえば、熱帯の昆虫は寒いツンドラの気候では生活できず、死に絶えてしまいます。しかしゆっくりとした変化であれば、体のつくりを変えたり、移動することができます。

気候の変化による生物の移り変わりは、化石の記録からわかります。たとえば、現在本州にはツキノワグマだけが、北海道にはヒグマだけが生活しています。ヒグマは津軽海峡を渡ることができないので、北海道だけに生活するのでしょうか。実は、化石を調べたと

ころ、ヒグマもかつて本州で生活していたことがわかりました。寒冷な気候を好むヒグマは、氷期に本州に渡ってきましたが、その後温暖になった本州では生活できずに絶滅してしまったようです。

現在本州の高山帯だけに生活している生物は、氷期の生き残りといわれているものがあります。これらの生物は、高い場所を好んでいるわけではなく、ヒグマと同じように寒いところを好んで生活するので、現在では高山にしかすみなくなってしまったと考えられます。これらの生物は、氷期には標高の低いところまで寒冷だったため各地に分散できました。しかし間氷期に入り温暖化が進むと、寒冷な高地だけにしか生活できなくなってしまったのです。そのため現在は、各地の高山にだけ取り残される形に分布しているのです。ユーラシア大陸をみると、日本の高山に生活している生物が、寒冷

ですが、特に標高が高くはない地域で生活しています。

最終氷期と現在（間氷期）の気候（植生）の違い。氷期には比較的低位まで寒冷だったが、間氷期である現在では高山が寒冷なだけ。このような気候の変化にあわせて、生物は生活しやすい地域を移動している。